

食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術における食道の解剖学的 位置と手術難易度、術後合併症、予後に関する検討 (多施設共同研究)

食道癌に対する食道切除術は侵襲の大きい手術であり、他の消化器癌手術と比較して術後合併症が多いことが報告されています。これまでに食道切除術後の合併症の発生に関与する因子として、喫煙歴、併存症、手術時間、手術中の出血量などが報告されています。

胸腔鏡下食道切除術において、右胸腔からの胸部手術を行う際に、食道が身体の左側の深い位置に存在し操作に難渋する症例をしばしば経験する。このような症例では、手術時間が延長したり、周囲臓器に過度の緊張が加わる操作が増加することが予想されますが、そのことが術後合併症の増加に関与するかどうかについては、いまだ検討されていません。

これまでに胸腔鏡下食道切除術を対象に少数例での検討を行い、身体の左側に位置する食道を有する患者では、手術時間が長く術後合併症が多いことを示しました。しかしながら、これは単施設での検討であり、多施設多数例での検討によって解剖学的な食道位置の重要性を明らかにする必要があると考えられました。食道の解剖学的な位置が手術難易度および術後合併症の発生に関与しているかどうか、また合併症に関与する場合に、それが最終的な予後に関与しているかどうかについて、国内の high volume center とともに多施設での検討をすることが、本研究の目的であります。

本研究は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会（臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会）においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。